

化学甘味料として Sweetmin 7, Sweetmin F. White sugar, Granulated sugar. 及び Crude sugar 溶液を用い、それ等を舌上に注加することにした。

3. (1)化学甘味料の閾値はそれぞれ違っている。

(2)化学甘味料の唾液分泌形式に特徴がある。

(3)化学甘味料反復使用の場合使用毎に唾液分泌量は減少する。

1. 唾液量による化学甘味料の吟味に就いて

東京歯科大 伊藤秀三郎

武田 安子

1. 耳下腺唾液に関する研究はかなり以前より行われている。その報告に興味あることが多い。北村等は嗜好性と耳下腺唾液量の関係を調べる目的で、酒や煙草等を摂取させ、その多寡を論じ、三輪は数種の味覚刺激剤を用いてその反射唾液量を調べ、また浜田等は刺激物質（ビスケット、飯、食パン、りんご等）が口腔内味覚受容器を刺激し、唾液分泌を促すか否かを知るため耳下腺の刺激物に対する選択的感受性を検索している。

演者等はこれ等の事柄に留意し、化学甘味料を刺激剤としてその反射唾液量を調べ、化学甘味物質の性質を客観的に観察し得るのではないかと本実験を試みた。

2. 林、橋原に準じた耳下腺唾液分泌測定装置を用い耳下腺唾液量を測定した。

被験者としては19~22才の健康なる女子学生を選んだ